



The Kyoto University Library Bulletin

静脩

1965年 9月

Vol. 2, No. 3

医学図書館

西尾雅七

先般米国の医学教育と医学図書館を視察する機会を得たのでカリフォルニア大学、サンフランシスコ医科大学を振り出しに3カ月ばかり、米国の有名な医科大学を訪ねてまわり、ボストンから英国へ渡ったが、この間20ばかりの医学関係の図書館を視察することができた。

近年わが国においても、各教室にあった図書室を中央化して医学図書館を置く方向に向っており、またそれらが互に連繋を密にして情報交換を積極的に行なうようになって来ているが、まだまだ近代的な医学図書館といえるような運営がなされているとはいえない。

米国で医学図書館が中央化した姿で運営されだしたのは、コロンビア大学の医学図書館においては、40年前のことだったそうである。したがってわが国の医学図書館が米国のそのような運営がなされるようになるのにはまだ数年、否10数年はかかると思われる。

米国の医学図書館をみてまわって印象に残ったことを以下に記すが、これは医学図書館に限らず参考になる点があると思う。

図書館の司書の地位が高く、運営上においても、その演じている役割が極めて大きい。このことは、わが国の司書の地位、演じている役割と大きく異なっているところである。

いずれの図書館においても図書の購入費も含めて大学本部から直接に来ており、わが国の国立大学のように教官研究費からいくばくかを差し出しているのとは全く違っている。したがって図書館が独自の判断で雑誌、図書の購入をしているのであるが、それだけに司書の責任は重く、図書委員会、研究者の助言を聞きながら業務を行なっている。

また図書館は研究者に便宜を与えていることをモットーにしているためまえからか、開館時間が極めて長い。多くの図書館は月曜日から金曜日まで朝8時あるいは8時半から午後11時まで、土曜日は午後6時まで、日曜日は午後2時から午後5時あるいは6時まで開館しているが、ロスアンゼルスのカリフォルニア大学生物医学図書館は月曜日から木曜日までは朝7時45分から真夜中まで開館している。

このように開館時間が長いので夜間はいわゆるアルバイト学生が管理にあたっているが、医学部学生は勉強に追われるので、とてもアルバイトをやる余裕はないとのことだった。

借り出し図書の問題には、いずれの図書館も頭を悩ましており、ジョンボブキンスのウェルヒ医学図書館やヒューストンにあるテキサス医学センター図書館などでは期限切れの借り出し図書に対しては日数に応じて罰金を徴しているが、クリーブランドの医学図書館では返還図書を受入れる箱が道路のそばや、図書館の入口に置かれたりしている。どこでも借り出した図書を期限に返さなくて迷惑をかける研究者はいるものらしい。

ニューヨークではニューヨーク医学アカデミーの図書館（全米第2を誇っている）を中心に10ばかりの医学図書館が連繋をとり、毎日定期便をもって図書館間の本の貸借をやっている。さらにコロンビア大学、エール大学、ハーバード大学の各医学図書館は電子計算機を用いて互に情報交換をやろうとしている。

とにかく医学関係の情報が激増しているので、一つの図書館だけでは十分な情報が提供できなくなってきたのが、医学界の現状のようである。

（医学部教授）